



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

兵庫県 神戸市立桜の宮中学校分校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**： 沖 美穂 先生 (自転車/ロード)
【出場オリンピック/シドニー2000大会、アテネ2004大会、北京2008大会】
- **期 日**： 2023年2月2日(木)
- **ク ラ ス**： 全学年合同/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・シドニー2000大会、アテネ2004大会、北京2008大会の3大会に、自転車/ロード競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」「頑張る」、フレンドシップ：「友情」「チームワーク」「仲間」、リスペクト：「敬意/尊重」と説明。運動の時間を通じてオリンピックバリューを意識して取り組むこと、全員でコミュニケーションを沢山とりながら、オリンピックバリューを考える時間にしたいと授業の目的を伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備運動は、「新聞じゃんけんバランス」を実施(全2回)。2人組でじゃんけんを行い、負けたら新聞紙を半分に折り、その上に乗る。新聞紙からはみ出た方が負け。主運動は、「トライリレー」を実施(全3回)。バスケットボールまたはバレーボールのどちらかを使用し、2往復の間に3種類の方法でボールを渡す。①後ろ向きで一列になり、後ろの人に頭の上からボールを渡し、渡したら最後尾に移動し再度ボールを渡す。②折り返し地点からは向きを変え、足の間からボールを渡し、渡したら最後尾に移動し再度ボールを渡す。③ドリブルで1人1往復、コーンを回って戻る。



・運動の時間を振り返り、各班共に、お互いに励ましの声を掛けながら、一生懸命取り組んでいて素晴らしかった。授業の最初に話した、全員でコミュニケーションをとると言う目標が達成できていた。座学の時間は、運動の時間に感じたことを思い出し、振り返りながら、オリンピックバリューについて更に考える時間にしたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**： 沖 美穂 先生 (自転車/ロード)
【出場オリンピック/シドニー2000大会、アテネ2004大会、北京2008大会】
- **期 日**： 2023年2月2日(木)
- **ク ラ ス**： 全学年合同/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



- ・自己紹介の後、座学の時間はオリンピックバリューについて、運動の時間に皆が感じたことを振り返りながら、学んでほしいと授業の目的を確認。
- ・自身は現役時代から、「自分自身に嘘をつかない」、「逃げない」、「ごまかさない」を信条に、一生懸命練習に取り組んできた。自身で決めた夢や目標に対して嘘をつかないために、練習は決して手を抜かなかった。苦しいときこそ我慢することを心掛け、練習に臨んだ。皆もオリンピックバリューを、合唱コンクールやフォトコンテスト等の学校行事や日常生活に置き換えて考えてほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



- 発問：運動の時間を振り返り、どのような点が良かったかをオリンピックバリューにあてはめてみよう。
- 発表：エクセレンス：「皆で気合を入れた」「1人1人が全力で頑張った」「本気を出した」等
- フレンドシップ：「仲間と協力した」「仲良くできた」「チームワークが発揮できた」「思いやりとやさしさを持つ」等
- リスペクト：「ルールを守りながら気合を入れた」「当たり前のルールを守った」「何事も楽しむためにはルールが必要」等



- ・座学の時間を振り返り、グループワークで皆が意見を出し合い、考え、それを発表する姿勢はとても素晴らしかった。何事にもチャレンジすることが大切で、今日学んだオリンピックバリューを意識することで、次のステージにつながる。大切なことは、他人はもちろん、自分自身に嘘をつかないことだ。どんな小さな目標でも良いので、何かに夢中になれるものを見つけてほしい。最後に自転車競技の記念品を皆に贈ると伝え、授業終了。

■修了証贈呈

